

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

●千葉大学医学薬学府創薬生命科学専攻

「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・講義は、平成19年度は6つ、平成20年度は10つ、そして平成21年度は11つを開講した。中でも、「治験総論」、「医薬品安全性評価学特論」、「先端・バイオ医薬品臨床開発論」、「医療統計学」、「患者管理と倫理」の5科目は毎年開講した。さらには、外国人による治験に関する「臨床英語講義」も毎年開講した。
- ・国内のインターンシップや視察は、平成20年度は2ヶ所そして平成21年度は3ヶ所を訪れた。海外は、学会参加を含め、平成19年度と平成20年度は2回、そして平成21年度は3回行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・医学薬学府教員に加え、産、官の担当者にも参加を願い、講義、インターンシップや視察を設定し、体系的かつ実践的なカリキュラムを構成した。
- ・プログラム参加大学院生には、TAやRAとして積極的に教育や研究活動にも参加させ、発表やコミュニケーション能力の充実を図った。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

本カリキュラムの構築により、新薬開発において日本が立遅れている治験・臨床段階でのタイムラグを解消するための問題点の認識、さらにはその課題解決への糸口が示唆されたものと考えている。なお、本取組み参加した学生によるアンケートでは、非常に満足度が高いという結果がでていいる。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

《医療系》

●千葉大学医学薬学府創薬生命科学専攻

「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・国内ではアスクレップ（株）やシミック（株）の民間企業に加え、国立がんセンター臨床試験部で、研修やインターンシップを実施した。
- ・米国（FDAやPhRMAなど）や欧州（WHOなど）にて海外視察や研修を行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・民間企業では、治験プロトコル作成から治験業務に関する知識の理解やプレゼンテーションスキルを習得することに主眼をおいた。また、治験の実際のプロセスや問題点の把握のために、提携診療所において医師や看護師等を教育者とした実習も用意し、実践的能力の習得を目指した。
- ・海外視察や研修は、国際学会開催時とその訪問時期を合わせるように相手方と交渉し調整した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・海外視察や研修では、日本が直面する新薬開発が課題について、別の角度から学習ができ、目標として掲げた世界規模の医療人育成が実践できたと考えている。
- ・国内および海外のこれら研修やインターンシップ等の取組みに関しては、参加学生によるアンケートは実践的能力の習得が出来たとして好評であった。